

加飾技術研究会

Letter No.21 (2016.7.1)

事務局 平野技術士事務所 105-0003 東京都港区西新橋二丁目8番1号 ワカサビル
創造工学研究所内 ☎/FAX 03-3504-2600 e-mail info@ce-hirano.com

www.kasyoku.org info@kasyoku.org

製品類、部品類などの最終加工は加飾処理である。工業製品を「商品」として価値あるものに仕上げるのは、加飾技術である。近年、環境に優しく、あらゆる負荷が小さい加飾技術が求められている。我々は、社会の要請に対して真摯に取り組み、優れた加飾技術について調査・研究・開発等を積極的に進め、社会・経済発展に寄与すべく加飾技術研究会の活動を展開するものである。

加飾技術研究会を再起動します

(代表理事 平野輝美)

加飾と付加価値

近年、「加飾」という言葉を頻繁に耳にするようになりました。Googleで「加飾」を検索すると、三省堂・大辞林がヒットします。(http://www.weblio.jp/content/加飾)

[三省堂 大辞林](#) [索引トップ](#) [用語の索引](#) [ランキング](#) [凡例](#) **三省堂**

かしょく [0]【加飾】

(名)スル

器物の表面にさまざまな工芸技法を用いて装飾を加えること。

大辞林には、「器物の表面にさまざまな工芸技法を用いて装飾を加えること」と示されています。このような「装飾」こそ、付加価値なのではないでしょうか。そして、「装飾」はすなわち、「加飾」になります。

日本はものづくりの国か？

日本は「ものづくり」大国だ！と表現する方がいらっしやいます。このような認識は、適切なのでしょうか？高度

経済成長の頃、そして資源が安価であった頃、日本の人口ボーナスがあった頃、日本がナンバー・ワンと持ち上げられ、ソニー（ウォークマン）・松下電器（VHS）・任天堂（ファミリーコンピュータ）など幾つかのアクティブな製品が世界を席巻していた頃、ものづくり大国だったのかもしれない。

今、経済環境は劇的に変化し、変化し続けています。その昔、日本がものづくりに輝いていた頃、製造には4M（Man, Machine, Material, Method）が必要でした。すぐれた4Mを集積して、製造現場を構築することが必須だったのです。その後、貨幣は金、すなわち価値から遊離し、管理通貨となっています。21世紀に入ってから、日本・米国と継続した金融緩和によって、貨幣・お金（Money）が爆発的に増大し、今や実経済の3倍とも言われています。

生産の4Mを揃えるためには、Money、すなわち資本の集積が必要でした。しかし、今や、このMoneyが溢れているのです。その結果、どうなったのでしょうか。特に、国家統制経済の中国では、あらゆる資本財・4Mが潤沢に手に入るのです。その生産能力は際限がありません。4Mを構築

すること自体がGDP・GNPを増大させるのですから。

よく知られていることですが、中国の鉄鋼生産能力は年間約10億トンで、実需は半分程度と言われています。自動車生産設備は年間5000万台規模ですが、実需はやはり半分程度とか。

●ものづくりから付加価値づくりへ

ものづくり・製造業は、その付加価値額は比較的大きいと言われています。それは、安価な資源材から工業製品を製造するのですから、それなりの付加価値を期待することができますでしょう。

しかし、今や、既述のようにものづくりでは量的な制限がなくなっているのです。その結果、激烈なコスト競争に巻き込まれ、汲々とする結果となっているでしょう。

旧来のものづくりから、大きな付加価値を付与する付加価値作りへとパラダイム転換が必要でしょう。

●加飾技術が求められています

このように、失われた20年、そして失われた25年にもなるかもしれない現状で、「加飾技術」に注目が集まっています。なぜなら、「加飾技術」は、価値を付与する技術であるからです。製品・商品に不付加価値を与え、利益をもたらす可能性が大きいからです。類似の製品に対して差別化し、自社製品を際立たせてくれるからです。

加飾関連分野で長年にわたって活動されている榊井氏によれば、近年のプラスチック加飾のトレンドは以下のようになるそうです。

- 単なる加飾から、機能性付与加飾へと展開している。
- 環境問題等から、塗装レス（鍍金レス）加飾が注目されている。高度な意匠表現を求められない場合は、NSD（Non Skin Decoration）が、高度な意匠表現が求められる場合は、フィルム加飾がその中心技術になる。
- オンデマンド加飾としてインクジェットが、触感付与としてソフトフィールが、着色材不要の発色加飾として構造色加飾の注目度が高くなっている。

このような展開は、近年では「加飾」への訴求が強くなっていることの表れでしょう。

もう一つ、「3次元表面加飾技術展」と称する展示会が進展していることです。このような展示に興味を持たれるということは、やはり「加飾技術」と「加飾」そのものに対する訴求の表れでしょう。

3次元表面加飾技術展2017

(<http://convertechexpo.com/category.html#tD>)

●加飾技術を活用した高付加価値ビジネス創造

昨年、加飾と価値創造（ISBN:978-4-9905828-4-5、2000円（税別）、2015年3月）を上市しました。そのなかで議論しましたが、比較優位を構築し、市場価格以上の価値を与え、訴求性を高める大きなアイテムとして、「加飾技術」を捉えることができるでしょう。「加飾技術」は市場から、そして多くの製造業企業・サプライヤー・販売企業などから強く訴求されているのです。

●「加飾技術研究会」を再起動します

加飾技術研究会は、すでに丸8年を経過しました。現在9期目に入っています。約10年です。

初期の頃、「加飾」という言葉は塗装や表面処理の業界用語でした。「加飾」という言葉の広い意味を考えながら、将来的には付加価値創造のキーワードにもなるかな・・・と期待して、加飾技術研究会を始めました。

しかし、なかなか会員が増えません。仲間内で細々と継続してきましたが、経済環境が大きく変わり、市場の注目が大きくなってきていることを実感しています。そこで、「加飾技術研究会」を再活性化し、多くの方々の協力を得て、広く活動を展開しようと考えています。細々とではなく、もっと活用いただくことができる団体へと変貌させたく思っております。

加飾技術研究会定款には次のように表明しました。

第3条（設立の趣旨と目的）

プラスチックの加飾技術は、今や各種プラスチック製品にかかる技術の重要な一分野となっている。しかし、その裾野は広範で、互いに異業種であるような存在に陥りがちになっている。そのため、プラスチック加飾に携わる企業、団体、個人等を総合的に結び付ける場がなかった。

本会は、プラスチック等を主な対象とした加飾技術の調査、研究、開発、情報の提供、講演、技術支援等を行い、これらの実施を通じてプラスチック等の加飾に携わる企業、団体、個人等を普遍的、有機的に結び付ける場を提供し、本分野の発展に寄与することを目的とする。

すなわち、加飾に関わるたくさんの企業やお客様、マーケットそしてユーザーにいたるまで、皆様が一同に参集して大いに議論し、研究し、お互いに発展する礎として、弊会を位置付けたく思っております。

2016年6月には第8回になる定時総会を開催しました。そこで、今後の展開を議論しました。ぜひ、皆様に活用いただくことができる、「加飾技術研究会」としていきたく思います。

加飾技術研究会に入会ください

(代表理事 平野輝美)

加飾技術研究会のサイト

加飾技術研究会を再活性化・再起動するにあたって、幾つかの書面を整えております。まずは定款、そして入会のご案内、加飾技術研究会の紹介資料、入会申込書などです。

これらの書面を入手いただくサイトとして、加飾技術研究会のサイト（トップページ）を紹介いたします。

(<http://kasyoku.org/KASYOKU/TOP.html>)

加飾技術研究会

TOP 加飾技術研究会 イベント 活動記録 ニュースレター Archive

加飾技術研究会

TOPICS New!

【2016.6.21】「高感度を付与する加飾技術」弊会理事にて講師を務めます。
日時：2016年7月6日、10時から17時
場所：技術情報協会セミナールーム
【2016.6.20】WTO研究所「加飾技術研究会補完Web」をリンクしました。
【2016.6.19】加飾技術研究会関連資料をアップデートしました。
◎加飾技術研究会 入会申し込み
◎加飾技術研究会定款
◎会員名簿・2016年6月23日
(会員名簿1、会員名簿2)
◎加飾技術研究会の案内資料
【2016.6.13】第8回定時総会を開催しました。

2008年頃、日本は失われた10年と言われた経済状況が継続し、失われた20年にもなるのではないかと懸念されていた頃です。加飾に関していろいろな業界ですこしずつ注目されてきた頃です。
加飾は、付加価値を増大させ、新しい経済環境を実現する一つの大きなキーワードであろうと考えに至りました。要は、日本の産業界は、コスト競争の注目するあまり、肝心な付加価値創造と利益向上について見失っていたのかもしれない。
加飾をキーンとして、日本経済の再活性化が可能なのでは・・・と夢想し、加飾技術研究会を立ち上げました。
プラスチックの加飾技術は、今や各種プラスチック製品にかかる技術の重要な一分野となっている。しかし、その裾野は広範で、互いに異業種であるような存在に陥りがちになっている。そのため、プラスチック加飾に携わる企業、団体、個人等を総合的に結び付けられなかった。
本会は、プラスチック等を主な対象とした加飾技術の調査、研究、開発、情報の提供、講演、技術支援等を行い、これらの実施を通じてプラスチック等の加飾に携わる企業、団体、個人等を普遍的、有機的に結び付ける場を提供し、本分野の発展に寄与することを目的とします。

【TOP】 【加飾技術研究会】 【イベント】 【活動記録】 【ニュースレター】 【Archive】
【加飾とは】 【1】 【～Vol. 20】 【1期】
【入会のご案内】 【研究会の運営】 【事務所】

今後、随時最新情報を掲載してまいります。また、加飾技術研究会の紹介資料や入会関連書類などもダウンロードできるように整えております。

ぜひご参照ください。

アーカイブには加飾技術関連資料を集積します

加飾技術研究会のサイトには、会員専用のアーカイブページを準備しております。ここには会員の皆様や、その他書籍などの資料を集積しております。

会員の皆様にご議論いただくための研究会や見学会なども準備しております。これから鋭意集積を進めてまいります。ぜひ、多くの方々に会員となって、ご参加いただきたくお願いいたします。

会員の交流を図るため研究会を開催します

既述のように、加飾に関する業務を行っている企業の方々や、ユーザーや販売等に携わっている方、資材供給の方々など、お互いの知見を共有して連携を構築していくことも大切であると思います。このような連携の中から、新たなアイデアや製品や商品が創造されるでしょう。コストではなく、大きな収益を与えてくれるようなブルーオーシャンを創造しましょう。

入会のおすすめ

加飾に関する業務を行っている企業の方々、しかしながら異業種であるような多くの方々、製品や商品を使う方々、そして皆様の世代を超えた交流の場として、ぜひ加飾技術研究会にご参加ください。

入会資料は

http://kasyoku.org/KASYOKU/ru_huinogo_an_nei.html をご参照ください。

<http://kasyoku.org/KASYOKU/TOP.html> から辿って入ってください。また、Googleで「加飾技術研究会」として検索するとトップに表示されます。ぜひ、入会をご検討ください。

第8回定時総会と第19回研究会のご報告

(代表理事 平野輝美)

第8回定時総会

加飾技術研究会第8回定時総会が以下のように開催されました。

日時：2016年6月13日（月曜日）14時から

場所：東京都中小企業振興公社議室（銀座）6A 会議室

議案：平成27年度活動報告、決算報告

平成28年度活動計画、予算案

理事、顧問の承認

定款の改定 その他

本レターでも書きましたが、「加飾技術研究会」を再起動

し、日本の産業界・ひいては世界の産業界を活性化する一助となるべく活動を展開していこうと決議いたしました。

本総会で承認いただきました新任の理事及び顧問の方、そして再任の理事の方々におかれましては、心機一転、新たに活動開始するべくご支援のほどよろしくお願いいたします。会員の皆様には議案書と議事録をお送りいたします。

第19回研究会

第8回定時総会に引き続き、弊社顧問榎井氏から「加飾技術の最近の動向」と題してお話をいただきました。本レターにも書きましたように注目されている加飾技術について最新の情報をご紹介いただきました。

また、研究会に引き続き、懇親会を行いました。会場が銀座でしたので、建物を出てすぐの居酒屋さんで開催となりました。

次回以降も連続開催を計画します。ぜひ皆様ご参加ください。

加飾と価値創造

(代表理事 平野輝美)

先日の日刊工業新聞に、“1円でも安く決別したい”(2015年3月10日)と題した社説が掲載されていました。読んでみると、デフレ経済で多くの企業が頑張っている、頑張っている“1円でも安く”、すなわち値段の“叩き合い”に明け暮れたことについてでした。これを脱却することに対する提言です。

経済活動における付加価値は、労働の成果である給与(人件費)＋利潤＋その他経費などの合計となります。すなわち、雇用の成果として地域経済に供給される給与は、“付加価値”なのです。デフレ経済に慣れた日本経済では、販売価格を下げるために激烈に競争して、その結果、付加価値も下げてしまったのではないのでしょうか。

付加価値を創造して、商品価値を向上し、かつ高い値段

で販売すること、このような状況を考えてみましょう。実は、高く販売すると、みなさまが満足します。商品を購入した方は、その価格で納得して購入しますので、満足するでしょう。製造者・販売者は十分な利幅を確保できたので、満足するでしょう。

加飾と価値創造

このような状況を作り出すためには、評価に耐えるだけの十分な価値創造が欠かせません。加飾技術研究会では「加飾と価値創造」をまとめました。加飾技術の概要を紹介し、それを活用して価値創造を提案しています。

価値を創り出して、満足を創造しましょう。

ISBN:978-4-9905828-4-5, 加飾と価値創造, 2000円(税別), 2015年3月。

研究会活動計画

事務局

第20回研究会

日時:2016年9月中旬

場所:東京都中小企業公社会議室

晩夏・初秋のころ、研究会を計画しております。詳細は加飾技術研究会のサイトを参照ください。

第21回研究会

日時:2016年11月ころ

場所:未定

いずれかの企業などを訪問させていただくことができれば良いと考え、鋭意準備を進めております。

第22回研究会

日時:2017年2月頃

編集後記

2016年は世界中が激動・・・と言われておりましたが、その通りになりつつあるかもしれません。加飾技術研究秋は、加飾技術を活用して、この荒波を乗り切っていくと考えております。何はともあれ、加飾を活用して、高収益を期待しましょう。

加飾技術研究会事務局紹介:創造工学研究所内平野技術士事務所にて活動させて頂いております。ご入会申し込み、質問、その他何でも、メールにてお問い合わせください。e-mail info@kasyoku.orgです。地図を載せます。右端の駅が新橋駅です。上が東京駅方向です。近くまでお越しの際はぜひお立ち寄りください(訪問前には電話をご一報ください。090-3694-7864です)。



加飾技術研究会

会長:前田秀一, 事務局:平野輝美

連絡先:平野技術士事務所

☎/FAX 03-3504-2600

所在地:105-0003 東京都港区西新橋二丁目8番1号

ワカサビル 創造工学研究所内

平野技術士事務所 代表 平野輝美

おくづけ 加飾技術研究会ニュースレターVol. 21

発行年月 2016年7月1日

発行者 加飾技術研究会 代表理事 平野輝美

☎090-3694-7864

e-mail info@kasyoku.org

年4回発行 季刊 定価250円